

# 一般入試前期A日程2日目

## 国語

一

出典 山田昌弘「新型格差社会」(朝日新聞出版 2021年)

新型コロナウイルス感染症により浮き彫りになった日本社会における様々な格差の実態について論じた本です。論旨は明快ですから、文意をつかむのは容易でしょう。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は①～⑦)

a 字義、b 先述、c 便乗、d 可視化、e 暗黙、f 富裕層、g 始終がそれぞれ正答です。全問正答率は6%でした。音から漢字を連想するのではなく文脈を理解して考えることが肝要です。

問2【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】(解答番号は⑧)

空欄  の直後の文がヒントになります。正答は⑥で、正答率は77%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】(解答番号は⑨)

空欄  の直前の「収入が…低下していく」や直後の「消極的幸福」という言葉から正答⑧が導けます。正答率は61%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑩)

傍線部Aの2つ後の段落を読めば正答は⑤であることがわかります。正答率は52%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑪)

傍線部Bの2つ後の文から正答が③だと容易に導けます。正答率は80%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑫)

傍線部Cの周辺だけを読むのではなく本文全体を丹念に読みさえすれば正答は⑥であるとわかるはずですが、④を選ぶ誤答が多かったですが、「家族の豊かさが段階的に上がるにつれて変容する」は本文の内容に合致しません。正答率は20%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑬)

傍線部Dの前の部分を踏まえれば、正答は①と簡単にわかります。正答率は81%でした。

問8【本文の内容を理解して該当しないものを選ぶ問題】(解答番号は⑭)

傍線部Eの直後の説明が大きなヒントになります。正答は②で、正答率は93%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑮)

遊園地が家族全員で一緒に消費する場であることをつかめさえすれば正答は⑥だとわかるでしょう。正答率は71%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑯)

傍線部Gの前後の内容を十分に把握しておけば、正答の④が導けるはずですが。正答率は44%でした。

問11【言葉の意味に関する知識を問う問題】(解答番号は⑰)

正答は②の「卑見」であり、「自分の意見」という意味です。正答率は22%でした。

問12【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑱)

傍線部Iの次段落の内容を押さえれば、正答が⑤だとわかるはずですが。正答率は57%でした。

**問13【内容を理解して小見出しを選択する問題】**（解答番号は **19**）

正答は④で、正答率は52%でした。この節には「承認」という言葉が5回登場し、キーワードであることがわかりさえすれば、正答するのは難しくありません。

**問14【内容を理解して小見出しを選択する問題】**（解答番号は **20**）

この節にある「『個人のために』物を買うという時代の始まり」や「個人の消費の顕在化」という言葉が正答を導くヒントです。正答は⑦で、正答率は60%でした。

**問15【内容合致問題】**（解答番号は **21**・**22**）

正答は⑤と⑦で、完全正答率は12%でした。⑤は本文3頁の2～5行目に、⑦は1頁の後から2行目～2頁9行目に書かれている内容です。受験生の67%が①を選んでいましたが、「職場で定着した」が本文の内容に合致しません。



出典 野家啓一「科学哲学への招待」（筑摩書房 2015年）

「演繹法」「帰納法」「仮説演繹法」等の特性を踏まえ、近代科学の成立基盤となる方法論に関する箇所から出題しました。非常に論理的書かれた文章ですから上記キーワードを中心に内容を理解すれば、必ずしも難問ではないでしょう。

**問1【漢字の書き取り問題】**（解答番号は **23**～**29**）

**a** 集大成、**b** 恒常的、**c** 長物、**d** 流儀、**e** 先駆者、**f** 受容、**g** 補正がそれぞれ正答です。**a** が意外と書けていませんでした。全問正答者は1%強にとどまりました。

**問2【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**（解答番号は **30**）

正答は①です。空欄 **I** は「帰納法」の文脈をもとに書かれており、その「帰結」を読んでいるかどうかのポイントです。正答率は39%でした。

**問3【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**（解答番号は **31**）

正答は④です。「帰納法」に限らず、前提を利用しながら帰結（結論）そのものの正しさを導出するのは「循環論法」にはほかならないでしょう。正答率は38%でした。

**問4【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**（解答番号は **32**）

正答は⑧です。正答率は71%と多くの受験生が正答を選んでいました。

**問5【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**（解答番号は **33**）

正答は③です。正答率83%と多くの受験生が正答を選んでいました。

**問6【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】**（解答番号は **34**）

正答は②です。「帰納法」と「演繹法」の難点を補うための「仮説演繹法」の手続きを理解することが重要です。次段落の冒頭2行辺りが最大のヒントとなります。正答率は49%でした。

**問7【文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は **35**）

正答は⑥と⑨です。傍線部**A**の直前で「命題」の説明がされています。この問題では「命題」

の真偽を問題にしているのではありません。例えば、②は「偽」と明確に真偽の判定ができるため、「命題」と言えます。一方、⑥と⑨の命令文や疑問文はそれだければ真偽の判定は不可能ですから、命題とは言えません。完答のため正答率は28%にとどまりました。

**問8【文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は **36**）

正答は④です。「仮説演繹法」の性格を正確に理解していれば、正答を導くことができます。正答率は49%でした。

**問9【文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は **37**）

⑥が正答です。13頁の「蓋然的（確率的）」や「一定の確率でその法則が成立するという蓋然的な主張にとどまる」などが最大のヒントです。正答率は17%にとどまりました。

**問10【文脈把握と内容理解（理由説明）に関する問題】**（解答番号は **38**）

正答は④です。「演繹法」に対置される「帰納法」の特性を正確に理解していれば、さほど難しくないでしょう。正答率は46%でした。

**問11【文脈把握と内容理解に関する問題】**（解答番号は **39**）

正答は④です。この問題も「演繹法」と「帰納法」のそれぞれの長所と短所を正しく読解できるかどうかは鍵です。正答率は55%でした。

**問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】**（解答番号は **40**）

⑤が正答です。該当個所では「演繹法と帰納法」が主題となっていることから、副題に着目すれば、正答を導くことができるでしょう。正答率は59%でした。

**問13【内容合致問題】**（解答番号は **41**・**42**）

正答は⑤と⑦です。⑧は「『自然哲学研究に関する予備的考察』」の著者の部分本文と合致しません。完全正答率は6%にとどまりました。